

つなカレかわら版

～第6号～

まちづくり計画



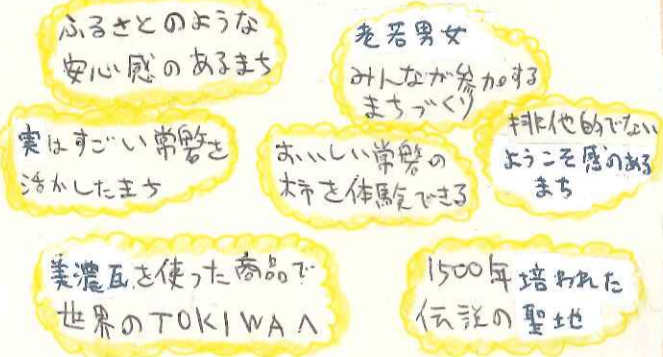
つなぐ人カレッジ～2014～

第4回『まちづくりの計画づくり』

日時：平成26年12月14日(日)
 場所：北部コミュニティセンター
 講師：大滝 聡さん、蒲 勇介さん、谷口 勤さん
 目標：学んだことを活かして、独自のまちづくり計画を立案する。
 まちづくりへの意欲と自信をつける。

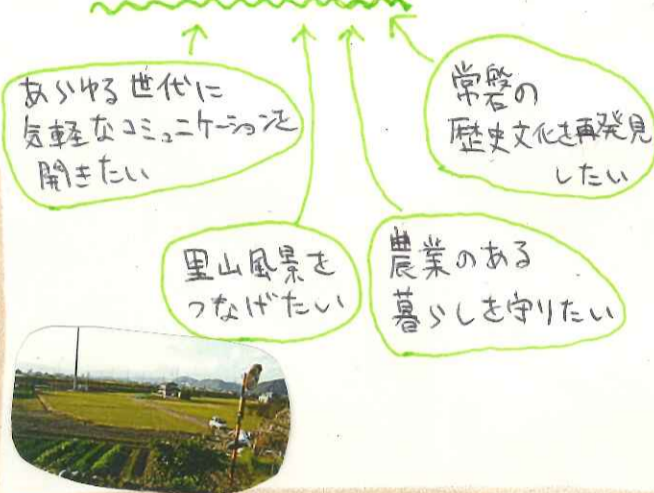
Aグループ

みんなで1500年昔われた伝説の聖地 ふるさと常磐をつくり、ようこそ感をうみだし、ちよと寄りこめて、世界のTOKIWAへ



Bグループ

ちよといい田舎常磐に住みつづけたい!!



Cグループ

常磐の潜在能力を引き出し、暮らし続けられる環境をつくる。



理念はまちづくりの究極の目標

現状把握

未来予測

要所解明

方針

方策は具体策

- ・まちづくり協議会がもうすぐ立ち上がる。
- ・木市(KAKI)、古墳(KOHUN)、瓦(KAWARA)他にはない資源がある。
- ・しかし、あまり知られていない。
- ・ようこそ感がない。
- ・人口減少・高齢化

- 可能的未来** = 明るい理想的な未来
- ・参加型のまちづくりで暮らしが維持できる。
 - ・瓦や古墳、柿で"世界のTOKIWAへ"
 - ・ちよと寄りこむようこそ感が生まれる。
- 成りゆきの未来** = 放っておくような、こころ
- ・人口が激減、暮らしが困難に...
 - ・柿畑が放棄地に
 - ・寺社が荒れる
 - ・語りべがいなくなる

- ・まだ気づいていない**資源**があるかもしれない。
- ・**後継者**がいなすぎる。
- ・イノシシ、クマが出る。
- ・バスが使われていない。
- ・車があれほど便利。
- ・水がキレイ(湧水)

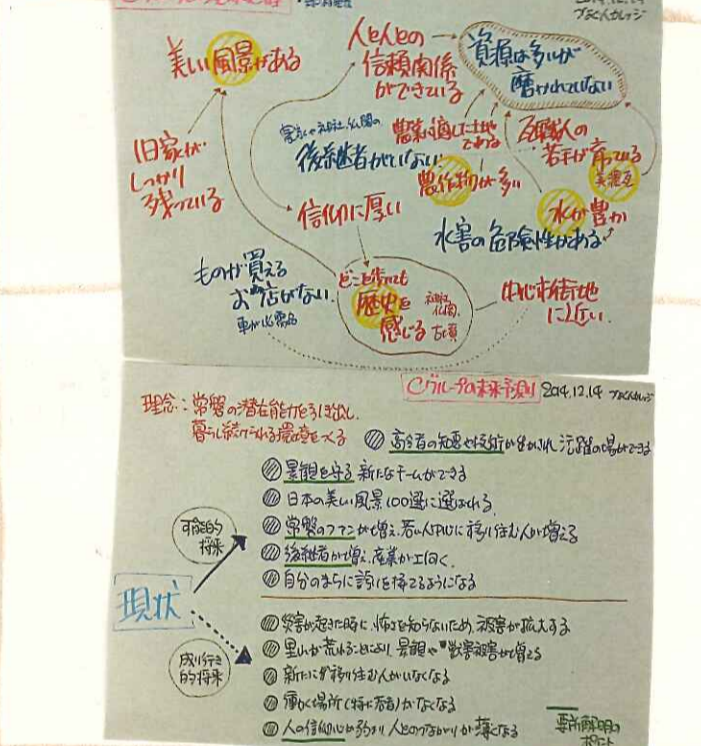
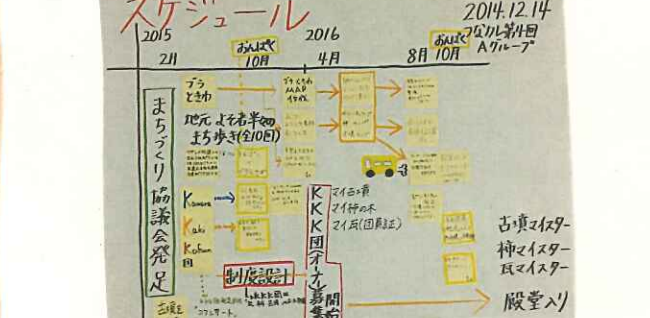
- 可能的未来**
- ・住人が魅力を感じられる。
 - ・交流人口が増える。
 - ・木市、神社が維持できる。
 - ・農業の成り手がいる。
 - ・古墳が整備される。
- 成りゆきの未来**
- ・人口が減る。
 - ・バスが消滅
 - ・里山が維持できない。(荒地増)

- 手の打ち処**
- ・参加型のまちづくりができていない。
 - ・地元の資源の魅力と価値を十分に知らない。

- 手の打ち処**
- ・後継者をつかむできていない。
 - ・資源を活用できていない。
 - ・住民が常磐の魅力を感じていない。

- ① 住民が地域の魅力を知る。
- ② 次の担い手を獲得する。
- ③ 地域資源を活用する。

- 知る**
- ・定期的なまちあるきイベント
 - ・寺・神社で歴史講話を聞く会
 - ・小学生とまちあるき
 - ・休日にコミバスで中学生ガイド
- つなげる**
- ・柿農家の1日体験
 - ・空き家を再活用するモデル事業
 - ・就活イベントで「兼業農家のススメ」
- 活用する**
- ・常磐柿をブランド化
 - ・木市のオーナー制度
 - ・古墳の整備オーナー制度
 - ・食料瓦作り体験



- 方針1 美濃瓦の新たな活用**
 - ・瓦取込人体験プログラム
 - ・瓦で表紙や運送物をつくるワークショップ
 - ・地域で食料瓦を使う
- 方針2 常磐のファンを増やす**
 - ・寺社仏閣・古墳めぐりツアー
 - ・寺社とのネットワークをつくる
 - ・木市の木オーナー制度
- 方針3 後継者づくり**
 - ・農家の空きスペースに岐阜大生を下宿。(農作業体験付)
- 方針4 景観見を守る**
 - ・写真コンテスト
 - ・小中学生と寺社の整備活動
- 方針5 高齢者の知恵を活かす**
- 方針6 人とのつながりづくり**
 - ・ときわ歴史博士
 - ・歴史の語り手講座
 - ・水害紙巻居

